

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	2-3-2		事業名	新産業育成推進事業
担当	経済局産業振興部新産業担当課新産業担当係 藤原 Tel 211-2379			
全 体 計 画				
事業内容	市内の中小企業者と大学等との連携や、異業種との連携を後押しし、地域の産業資源を活かした産業の振興を図るため、新産業の事業化が期待できる①環境・エネルギー②福祉・医療③情報・通信④バイオテクノロジー(ライフサイエンス)関連分野への取組みを支援する。研究開発から販路拡大までを一貫して支援する機能を有する財団法人北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)を仲介役とし、より効率的、効果的な支援を行う。平成21年度以降は、平成20年度完成予定の北大北キャンパスのビジネスインキュベーション施設入居者なども対象に加えることで、事業のレベルアップを図る。		<年度別の事業内容>	
			○平成19年度～平成22年度 毎年度2件程度の案件において、市内の中小企業者と大学等との連携や、異業種との連携を後押しし、地域の産業資源を活かした産業の振興を図るため、新産業の事業化が期待できる①環境・エネルギー②福祉・医療③情報・通信④バイオテクノロジー(ライフサイエンス)関連分野への取組みを支援する。	
事業内容・量・場・所・案件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	下記2案件に対し補助金を支出、製品化を達成した。 ○北海道産の鮭の卵巣外皮から抽出した素材を、機能性食品・化粧品素材へ応用するための事業「サーモンオバリーペプチド第2世代の開発」に対して補助金を支出し、その科学的根拠を確立し、製品化を実現、事業化に向けての道筋を作った。 ○天然素材を使用、環境に配慮した化粧品であり、そのデザイン性・使用感・品質により高い評価を得ている紙石鹸「初雪」の素地の改良等を行い事業化を図るための「環境に配慮した地域ブランド紙石鹸の事業化」事業に対し補助金を支出し、その製品化を実現した。		以下の3案件に対し補助金を支出、製品化を達成した。 ○他のジャガイモウイルスに比べて、検出が困難であるYウイルスN系統に対して、検出精度苦情及び検出時間短縮を可能とする独自の抗体を使った検査キットを開発した。 ○放射線治療医の全国的な不足に起因する地域医療格差の是正のために、放射線治療医の常駐していない地方病院での治療に対し、札幌における登録スタッフが遠隔対応できるシステムを開発した。 ○農業や医療の現場での、作業時における腰部負担を軽労化することを目的とした、スマートスーツ「ライト」を開発した。	
	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
	以下の3案件に対し補助金を支出、製品化を達成した。 ○超高感度の女性ホルモン作用検出用植物バイオセンサーを応用し、全部で4種類のホルモン活性物質(女性ホルモン・糖質コルチノイド・黄体ホルモン・甲状腺ホルモン)を検出する植物バイオセンサーを開発、ステロイド系治療薬等の一次選抜システムを製品化した。 ○次世代シーケンサーによって得られるデータに、膨大な情報量を持つデータベースから効率的に生物学的な機能の特定や意味付けの注釈(アノテーション)を付け、より付加価値の高いデータ解析を短時間で実施するシステムを構築した。 ○自社製の初代細胞のみならず、輸入販売をしているヒト由来初代細胞でも使用する血清低減培地及び化学合成培地を開発した。		2件程度の案件において、市内の中小企業者と大学等との連携や、異業種との連携を後押しし、地域の産業資源を活かした産業の振興を図るため、新産業の事業化が期待できる①環境・エネルギー②福祉・医療③情報・通信④バイオテクノロジー(ライフサイエンス)関連分野への取組みを支援する。	

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	2-3-2		事業名	新産業育成推進事業		
達成目標の状況						
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
補助金交付件数(累計)	2件	4件	7件	10件	12件	10件
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)						
<p>■市民との連携、市民参加 事業を展開していく中で、民間・業界団体などの有識者からの意見を取り入れている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力](該当なし) [人材協力](財)北海道科学技術総合振興センターの持つ専門人材を活用している。 [情報協力](財)北海道科学技術総合振興センターの持つ広範な情報・ネットワークを活用している。 [その他の協力]北海道立工業試験場や北海道大学など他研究機関より協力を受け、研究開発等を進めている。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (財)北海道科学技術総合振興センターの広範なネットワークを活用することにより、広く企業の掘り起こしを行い、企業が本事業を受けやすい環境づくりを行っている。</p>						
評価(成果)			課題			
本事業を実施することにより、積極的に新産業分野の事業に取り組もうとしている中小企業が、新技術・新製品の開発・事業化を効果的に推し進めることが可能となり、地域の産業資源を活かした産業振興を図ることができた。			本事業において事業化された新技術・新製品について、事業終了後も適切な商談相手との連携、各種資金支援など、効果的に企業の売上につなげていく必要がある。また、本補助金の対象となりうる成長性のある新産業分野の企業をさらに発掘していく必要がある。			
今後の事業の予定・方向						
本市の他施策(さっぽろベンチャー支援事業、知的クラスター創成事業、大学連携型施設等運営事業等)において、本事業の対象となりうる成長性のある企業を発掘するとともに、本事業終了後も企業連携構築事業等の本市の他施策を効果的に活用することにより、起業から研究開発、販路拡大まで事業の連続性を持たせ、より効果的に新産業を創出していく。						

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		2-3-2			事業名	新産業育成推進事業		
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	12,000	12,000	12,000	12,000	48,000		
	財源内訳	国・道支出金					0	
		市の債					0	
		その他					0	
		一般財源	12,000	12,000	12,000	12,000	48,000	
予算	事業費	12,750	11,250	10,250	9,250	43,500		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0	
		市の債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	12,750	11,250	10,250	9,250	43,500	
実績	事業費	12,727	9,992	8,016	-	30,735		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0		0	
		市の債	0	0	0		0	
		その他	0	0	0		0	
		一般財源	12,727	9,992	8,016		30,735	
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					83.3%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)								
《全体》								
[19年度] 計画とほぼ同額で予算を執行。								
[20年度] 委託予定であった支援対象企業に対するフォローアップ業務を本市で実施したため、予算に比べ実績額が減額。								
[21年度] 補助事業の効率的な執行により、実績が減額。								
[22年度] 事業の効率的な執行により、予算が減額。								